伊集院町徳重大バラ太鼓踊り

【所　在　地】日置市伊集院町徳重 1787（徳重大太鼓踊り保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】平成５年３月 24 日

この太鼓踊りは，南九州に残る数多い太鼓踊りの中で，風流化の傾向を顕著に現す特色ある太鼓踊りである。

本県で伝承されている太鼓踊りの中では，もっとも大きい径の太鼓を使用し，その直径は約 1.45m（４尺８寸）あり，１つの太鼓に張る牛皮は牛２頭分を要するといわれている。なお，幟は約 20m と極めて大掛かりなものである。

芸態は，「道行き」，「門掛り」，「庭入り」，「まくり」，「本庭」，「引き鉦」，「後庭」，「門出」の八つの型で構成される。まくりというのは，北薩一帯に多い渦巻隊形に似ているが，ここではマクイすなわち回転を意味し，入れ鼓・鉦が密集したまわりを大太鼓が逆まわりに走っていき，大太鼓もろとも次々に倒れてしまうというもので，ユーモラスで豪快である。

毎年，10 月第４日曜日の妙円寺詣りの日，島津義弘の追悼の意味で徳重神社（妙円寺）に奉納公開されている。